

### 第3回熊本県地方大学・地域産業創生交付金事業外部評価委員会 議事概要

【日 時】令和7年（2025年）12月8日（月）

～令和7年（2025年）12月19日（金）

【形 式】書面開催

【委員一覧（敬称略）】

所属・役職	氏 名
国立大学法人東京大学 特別教授	黒田 忠広
九州経済産業局地域経済部 部長	楠木 真次
日本銀行熊本支店 支店長	豊蔵 力
一般社団法人熊本県情報サービス産業協会 会長	豊住 周二

【開催概要】

- ・「地方大学・地域産業創生交付金制度要綱第9 効果の検証」に基づき、重要業績評価指標（KPI）の達成状況について毎年度検証する。
- ・本県の検証方法として、県及び熊本大学で取組内容について自己評価を実施し、その評価結果と重要業績評価指標（KPI）の達成状況について外部評価委員会が評価・検証を行う。

【評価結果】

（1）地方大学・地域産業創生交付金に係る自己評価について

本県及び熊本大学の自己評価について、委員全員から「妥当である」と評価された。

（2）KPIの達成状況について

重要業績評価指標（KPI）について、委員全員から「計画どおり進んでいる」と評価された。

（3）交付金事業の進捗について

事業の進捗状況について、委員より以下のとおり意見があった。

- ・ 取組みを高く評価する。女性活躍につながる取組みが加わればなお良い。

→ 熊本大学の回答：

熊本大学は女子中高生の半導体関連分野を含む理系への進学促進に向け「はばたけ熊本サイエンスガールズ」イベントを定期的で開催している（本年度は23回開催）。また、東京大学と連携し、中高生を対象とした半導体の魅力を体験で

きるイベントを実施している。このイベントでは、主に女子中高生向けの半導体チップの加工体験など、半導体をより身近に感じられるプログラムを用意しており、今後も継続して取り組む予定である。

- ・ 本事業は4年目を迎えるが、ここ数年は九州に限らず全国で半導体分野の人材育成が活発化している。このような中、本事業の成果を地域産業に還元するため、熊本大学の半導体関連課程の卒業・修了者の県内就職につながる取り組みを検討・実施していくべきと考える。

→ 熊本大学の回答：

今年度から、地域の半導体関連企業と連携した実践的な講義を開始した。地域の半導体産業を広い視野で理解する力を育むとともに、地域企業の認知度向上や県内企業への就職意欲の醸成にもつながっている。今後も、学生と地域企業が継続的に関わる機会を創出できるよう、さらなる工夫を検討していきたい。

#### (その他の意見)

- ・ 本事業は半導体産業が集積する熊本県の特性を活かし、半導体分野の専門家人材を育成するとともに、地域産業の持続的な発展を図る重要な取組である。また、産学官による三次元積層実装技術開発の取組は、世界の半導体技術を牽引していく可能性があり、今後の展開に期待する。
- ・ 工学部「半導体デバイス工学課程」、情報融合学環の設置に続き、大学院自然科学教育部「半導体・情報数理専攻」の新設、大学院生の雇用（リサーチ・アシスタント等）など、地域企業と連携した実践的半導体教育の推進、半導体専門人材の育成がスピーディーかつ切れ目なく進んでいる点を高く評価したい。
- ・ 地域企業と大学との共同研究においては、優れたコーディネーターのサポートにより新たなプロジェクトの創出や特許出願、外部資金の獲得が進んでおり、コンソーシアムによる研究をビジネスに結び付けるエコシステムが機能している。今後、共同研究成果の出口戦略に関する議論がさらに活発化し、事業化に至る案件の創出に期待する。
- ・ 引き続き、地域の魅力向上、産業の発展、人材育成に向けた事業の継続に尽力いただきたい。

以上